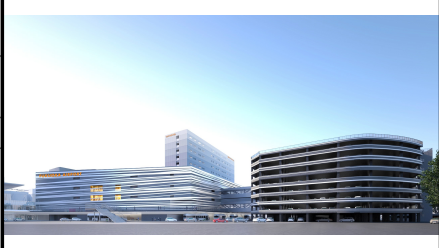


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 (使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.02))

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	福岡空港国内線複合施設	階数	地上11F
建設地	福岡県福岡市博多区大字下臼井77	構造	S造
用途地域	商業地域、準防火地域、指定なし	平均居住人員	5,000 人
地域区分	7地域	年間使用時間	6,570 時間/年(想定値)
建物用途	物販店、飲食店、ホテル、等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年3月 予定	評価の実施日	2024年10月3日
敷地面積	181,071 m ²	作成者	宮崎、大野、眞榮城
建築面積	59,528 m ²	確認日	202●年●月●日
延床面積	48,810 m ²	確認者	〇〇〇



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.3 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★	標準計算 30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.3	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.6	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.7
LR 環境負荷低減性		
LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.5	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.2	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.2

3 設計上の配慮事項	
総合	その他
西側を既存ターミナルに接続させ、東側を立体駐車場と構内道路を挟み近接させることで、南北の通風を確保しつつ、東西からの熱負荷を受けにくい配置とする。 内線バス専用道路を設け、施設利用者の利便性向上と交通負荷の抑制を図る。 商業施設を増設することで、周辺環境の利便性の向上を図り、ホテル併設で空港機能を拡充する。	
Q1 室内環境 外部開口を最小限とし、ガラスにはlow-eペアガラスを採用することで、環境負荷を低減し室内環境を快適に保つ計画とする。騒音の懸念のため一般部にはT-2サッシを用い、ホテル客室および滑走路側はT-3サッシとし、室	Q2 サービス性能 既存施設に倣い、UDを基本としたすべての人にやさしい(優しい・易しい)空港、ハード(施設)の整備とソフト(境遇)の対応のバランスのとれた施設機能構成、サービスを提供しやすい施設配置を目指す。耐震ブレースを極力
LR1 エネルギー 電気熱源(ターボ冷凍機・モジュールチラー)とガス熱源(冷温水発生機)併設。 電気とガスのベストミックス熱源により環境負荷の低減を図る。	LR2 資源・マテリアル 以下項目を採用する。 LED照明の採用、超効率型変圧器、グリーン調達、中水処理設備
Q3 室外環境(敷地内) 敷地内通路はほぼ全域に庇をかけ、避暑対策を行う。屋上広場は照り返しによる暑さを緩和するよう、人工芝敷きとする。屋上広場の日当たりが厳しい箇所に部分的に植栽等も施す。	LR3 敷地外環境 冷温水発生機を設置。駐車台数800台⇒1600台への拡大や、内線バスの専用道路設定による交通負荷の抑制。ごみ処理スペース確保等による廃棄物処理負荷抑制

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される